

初質問に際し、政治への想いについて

皆様、おはようございます。吹田新選会、足立将一、通告に従いまして個人質問いたします。

質問に先立ちまして、私の政治への思いを述べさせていただきます。

私は、このたび25歳でこの場に立たせていただきました。選挙期間中、若い力で政治を変えて、というお言葉を何度もいただきました。

今、国、地方にかかわらず、国民、市民は政治に対し不信感を抱いております。この政治不信を払拭し、市民が誇りを持てる政治、希望を持てる政治を実現し、市民が吹田市に住んでよかったと心から思えるまちにしたいという、そういう思いを胸に抱き、市議会議員にならせていただきました。この初心を忘れることなく、議員としての責務を精いっぱい果たしてまいります。

また、議員になるに当たりまして、20代の責任というものを感じております。私ども20代の責任、これは非常に大きなものです。我々は、バブルがはじけた後の失われた20年と評される傷ついた日本とともに成長してまいりました。右肩上がりの時代が終わり、少子・高齢化が進み、大きな社会保障の負担を背負いながら、先行きの見えない社会を手探りで歩んでおります。

しかし、我々の世代がくじけてしまえば、これまでの日本を支えてくださった先輩方をお支えすることができず、また私どもの子供たちには、より困難な状況を残してしまうことが目に見えております。何とか私どもの世代で負の遺産を解消し、子供たちにはまた明るい日本・吹田の将来を描いてもらいたい。先輩から受け取ったこの日本をしっかりと子供たちに渡していく。そういった責任を胸に、私は政治の世界に飛び込ませていただきました。そういった強い思いで質問をさせていただきます。